

# いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

## 三陸復興

第75号

平成26年11月15日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つなごろう」を大切にしていきたいと思っております。

鮮やかだった紅葉も終わり、ストーブに火がはいり、これからは日々冬の寒さを感じる季節になりました。復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

## 薪を届けて被災地支援「こいわの森」から宮古市へ

葛巻町

盛岡広域振興局林務部及び沿岸広域振興局宮古農林振興センター林務室は、震災発生後から現在まで、県内の林業関係の団体、ボランティアグループ等と連携し、木材を活用した被災者支援活動に取り組んできました。

10月20日(月)には、葛巻町森林組合の協力を得て、葛巻町「こいわの森」で生産された薪を、宮古市の田老町漁業協同組合に提供しました。

この取り組みでは、『木を切って使うことは健康な森づくりに必要なこと』をテーマに掲げており、首都圏と葛巻町の子どもたちが「こいわの森」の木を間伐して作った薪や、ボランティアにより伐採・生産された薪を県が沿岸被災地に運ぶというもので、毎年行われています。

薪に使用するのは、葛巻町で約1万ヘクタールにわたり生育する広葉樹ミズナラ。燃えやすく、薪や木炭に適している木材です。春と秋の年2回、それぞれトラック2台分の約3～4tの薪を提供しており、震災直後は炊き出し等、被災地の日常生活において必要な場面で使用されていましたが、現在は漁協の作業場や漁船等の暖房用として使用されています。被災地のニーズに合わせ、薪が必要とされる間は、県はこれからも取り組みを継続していきます。 ※この取り組みは「スマイル130(いちさんまる)プロジェクト」として行われたものです。詳細はページ下をご覧ください。



今回の取り組みに携わった田老町漁協の職員及び県の職員



葛巻町から運搬した薪を田老町漁協のコンテナに移す様子

## 岩手・宮城 に国営追悼・祈念施設を設置 政府が閣議決定

政府は10月31日(金)、東日本大震災津波で甚大な被害を受けた陸前高田市高田松原地区と宮城県石巻市南浜地区にそれぞれ国営追悼・祈念施設を設置することを閣議決定しました。

国として犠牲者への追悼と鎮魂の深い思いを示し、震災の記憶と教訓を後世に伝承する場とするとともに、復興に対する強い意志を国内外に発信することが目的です。

政府は、それぞれの県や市が整備する復興祈念公園の中に、数ヘクタール程度の丘や広場を造成し、モニュメント等を設置することを想定。来年度から基本設計に着手し、震災10年を迎える平成33年3月の完成を目指します。

竹下亘復興大臣は記者会見で「まさに鎮魂の場であり、震災の記憶を呼び起こす場と考えている。復興の象徴となる森や丘といった整備を中心に、誰でも、いつでも、自由に行ける施設でなければならない。」と述べました。

政府は、被災した東北3県に1ヶ所ずつ国営施設の設置を計画。原発事故の影響が続く福島県の設置場所は今後、県などと調整して決めていく予定です。



追悼施設の設置が予定される高田松原地区



### スマイル130(いちさんまる)プロジェクト

スローガンは「130万人誰もが笑顔に」、活動のコンセプトは「県民の笑顔のために」、「感謝の笑顔(県外、世界に)届ける」。復興に取り組む県職員の気持ちを盛り上げ、県民と一体感のある復興に向けた取組を展開するプロジェクトです。スマイル130プロジェクトの取り組みの様子は以下の県HPをご覧ください！

<http://www.pref.iwate.jp/seisaku/smile/index.html>





来春から三陸沖で航海  
新漁業実習船「海翔」の進水式開催

宮城県  
石巻市

東日本大震災津波で被災し、新たに建造され、久慈東高等学校、宮古水産高等学校、高田高等学校の3校が共同で使用する実習船の進水式が、11月4日(火)、宮城県石巻市のヤマニシ本社工場で行われました。

船名は3校の生徒から募集し、投票で「海翔(かいしょう)」と命名されました。

「海翔」は全長34メートル、定員34人で170トン。最新鋭の機材も搭載しており、発行ダイオード(LED)を船内外の照明やサンマ集魚灯にも採用。女子生徒用のトイレや寝室等の設備も完備されています。

未来の水産業の担い手である高校生たちの想いが託されたこの実習船は、平成27年4月から「洋上を動く教室」として実習に使用されます。(写真提供:久慈東高等学校)



新たに建造された実習船「海翔」



進水式に参加した生徒たち

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。

第29回目は、渡辺 賢也さんを紹介します。

PROFILE

大槌町出身。

平成19年より大槌町社会福祉協議会に勤務。

東日本大震災津波で被災。現在は、宮古市の災害公営住宅で暮らす。

ボランティアセンターで全国からのボランティアの受け入れや町民のボランティア育成の業務に携わる。

住民のコミュニティ形成のために

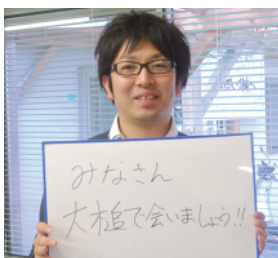
全国からのボランティアの受け入れや町内での活動をコーディネートしている渡辺さん。

「震災から月日が経った今、仮設住宅住民や在宅の住民を問わず、皆が集まれるイベント企画等、コミュニティ形成に一役かってくれるようなボランティア活動が求められている気がします。」と活動を通しての印象を語ります。

未来の

さんりく  
びと

社会福祉法人  
大槌町社会福祉協議会  
ボランティアセンター  
ボランティアコーディネーター  
渡辺 賢也  
(わたなべ けんや) さん



渡辺さんからのひと言：  
みなさん  
大槌で会いましょう!!

蒸し焼きカキ シーズン到来！  
三陸山田 かき小屋がスタート

山田町

東日本大震災津波で全壊した山田町大沢地区のかき小屋は、同町の観光復興を目指し2011年10月に船越地区に場所を移し「三陸山田 かき小屋」として営業を再開。

大きな鉄板の上にスコップで豪快に殻付きのカキを山盛りにし、殻ごと蒸し焼きにすることによってカキの旨味を逃さないのが特徴。

そして、今シーズンの殻付きカキの蒸し焼き食べ放題が11月1日(土)から始まりました。

「提供するカキは、山田湾で毎朝水揚げされた新鮮なもの。織笠地区の漁師が手間ひまかけて丁寧に養殖したカキを全国の皆さんに味わってもらいたい。」と店長の佐々木隆さん。海産物と観光面からの復興に期待が寄せられます。



鉄板で蒸し焼きされる殻付きカキ

【殻付きカキの食べ放題】

- ・平成27年5月6日まで
- ・水、木曜日定休(祝日の場合は営業)
- ・完全予約制(制限時間40分)
- ・中学生以上2,500円、小学生1,500円
- お問い合わせ:山田町観光協会  
TEL:0193-84-3775  
(8:30~17:00、予約受付:水曜日休業)

そんな渡辺さんは「復興祈願!大槌町民大運動会」の実行委員の一員として活躍しました。

これは、町民による復興会議の中で挙がった「みんなが集まるようなイベントをしたい」「運動会をしたい」という声に加え、大槌高校で掲げる復興五大戦略のひとつとして、町民大運動会の案が挙がったことをきっかけに、住民の世代間・地域間交流を目的に開催されたそうです。

変わっていく大槌町の様子を伝えてほしい

これからの大槌町について「まだまだ何年かかるか分からない復興です。これからは人に頼るだけでなく、住民が自らすすんでこの町を作っていくかなければならないと思います。これから、町はどんどん大きく変わっていくと思うので、ボランティアの方々には継続的に大槌町に来て頂き、その様子を見たり住民の方々の話を聞いてもらったりして、地元に戻った時に今の大槌町の様子を伝えてもらいたい。それだけでも十分町の復興の助けになると思います。」と語りました。

岩手県の被害状況

平成26年10月31日現在

- ▶人的被害 死者(直接死):4,672名 行方不明者:1,132名
- ▶建物被害(住家のみ、全半壊) 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年10月31日現在

- ▶義援金受付状況 約181億8,762万円(90,154件)
- ▶寄付金受付状況 約195億9,661万円(7,023件)
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約70億3,655万円(14,081件)

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第75号 平成26年11月15日号 企画・発行:岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷:シナプス